

TSUNAMIネットワークパートナーズ 通信

* 第5号 TSUNAMIベンチャー会員 上場記念 *

去る4月21日(木) ベンチャー支援組織「TSUNAMI」のベンチャー会員であった「アビックス株式会社」がJASDAQ市場に上場しました。

アビックス株式会社は、独自のLED表示技術と画像ソリューション力を集結し、企業と社会に新しいvisionを提供している会社です。しかし単に、LED表示機というハードだけではなく、アビックスが提唱するデジタル・プロモーションを実現するためにソフト、アフターサービス、あるいはコンサルティング領域など多岐にわたってお客さまをサポートしています。私たちにお馴染みのvision製品としては、新幹線ホームの発着掲示板、渋谷スクランブル交差点のQFRONTの大型「サイバービジョン」などが挙げられます。

今回の通信では、熊崎社長や社員の方に、上場に至るまでのお話し等をお聞きしましたので、ご紹介いたします。



代表取締役社長 熊崎 友久氏

【会社概要】

会社名：アビックス株式会社

(URL <http://www.avix.co.jp/>)

代表者：代表取締役社長 熊崎 友久 氏

所在地：神奈川県横浜市金沢区福浦1-1-1

横浜金沢ハイテクセンター・テクノタワー1F

電話番号：045-780-1261

設立：1989年4月 資本金：50,587万円

事業内容：LED表示機をエンドユーザーに販売する情報機器事業

LED機器の構成部材を国内外のシステムメーカー等に販売するコンポーネント事業

映像コンテンツ、メンテナンスサービス、レンタル事業を中心とした運営事業

、熊崎社長のお話し

上場後の今の心境

平成17年4月21日に、JASDAQに上場させて頂きました。ここまで御支援頂いた皆様のお力添えにより、企業として次のステップに進むことができました。感謝申し上げます。多くの株主の皆様のご期待に応えるべく、「映像看板」という新規の市場を創造し、この上場をきっかけにさらに事業拡大に邁進していく所存です。

上場までの苦労話

上場という一つの段階を経るまでに、社内のルール作りなどから始まり、公の企業としての安定した事業成長ができる会社の構築という本質的なところまでを、より真剣に追究できたという面があります。

その状況を「苦労」と言えば苦労かもしれませんが、企業をしっかりとモノにする、という観点からすると、上場企業への体制作りというのは意義があることだったと考えています。当社は公開準備から結構時間がありましたので、所謂、徹夜が何日も続いた・・・、などの話は少ないですが、本質論である企業をしっかりとしたものにする、という苦労はありますね（公開前も公開後もそうですが）。

TSUNAMIのベンチャー会員への励ましの言葉

私がこの位置に立つて言うのも変ですが、株式の公開も一つの目標ではありますが、本来は、企業が活動を通して「何を達成するのか？」ということが最も重要だと考えます。当社は事業拡大をするには、上場をして「映像看板市場」という新しい市場があるのだ！ということをご皆さんに知っていただきたいというのが上場の重要な目的です。

企業を取巻く人・社会など単純なものではないはずですから、「株式公開」という事象は自分の経営する企業にとって、どういった意味を持つのかは今一度十分に検討された上で公開をされたら良いかと思います。



4月21日、JASDAQプラザにて行なわれた上場セレモニーにて(左：代表取締役会長 時本様)

、従業員代表： 営業一部部長 宮本 達志氏のお話し

上場後の今の心境

上場できたことで社員としても自信のようなものが芽生えたという面はあると思いますし、それ以上に当社の取引先の皆さんが喜んで頂けたのが印象的です。一方で上場企業としてのスタッフとして見られる今後については責任を感じます。

上場までの社員としての苦労話

私は営業部門担当ですので、立てた事業計画をしっかりと達成していかなければならないことを、従来よりも強く感じました。また取引の1件1件の内容を客観的に吟味することも重要であることを感じました。しかしながら「苦労」というより、株式公開後、お客様からの信頼も厚くなり、今後の事業展開が楽しみです。

TSUNAMIネットワークパートナーズ 社長： 呉 雅俊

東海道新幹線の時間を示す駅の表示板が明るく見やすくなりました。アビックスさんの技術です。新幹線に乗るたびに表示板が変わっていくのを確認してアビックスさんの成長を感じてました。もちろんこれだけではありません。株式上場を糧に技術の応用範囲を広げてさらに成長を加速されることでしょうか。益々の発展を期待しております。

TNP オンザロード 担当： 柴田 豊

熊崎社長はデジタル・ITの技術を駆使して「看板の映像化」を実現しました。また、お客様の視点に立ち常に結果の最適化を目指し実現しています。単に看板を映像化するだけでなく、店舗の集客の向上のためのソフト面での支援にも力を注いでいます。今後は電子看板を核とした社会インフラの構築をしていくものと期待しています。

【お問い合わせ先】

(株)TSUNAMI ネットワークパートナーズ

(TEL) 045-470-8088 (FAX) 045-470-8090

井 汲 / 進 藤 / 飯 塚 / 奈 尾 / 藤 井